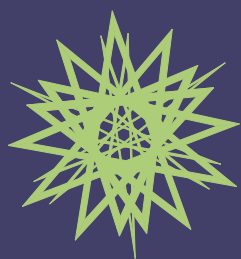


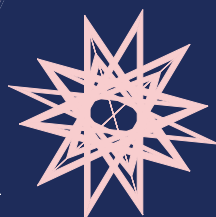
# 月曆七タ サイエンス・カフェ

2013 8/11 - 13

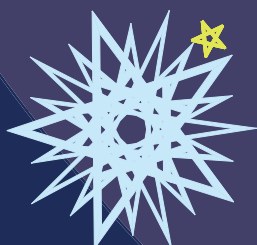
京都芸術センター



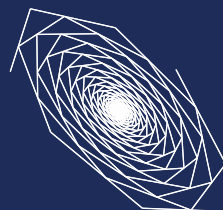
Deneb



Vega



Altair



7th Moon



主催： 日詰 明男 Star Cage  
[www.starcage.org](http://www.starcage.org)

共催： 京都芸術センター



# 月暦七夕 サイエンス・カフェ 2013

西暦 2013 年 8 月 13 日は旧暦 7 月 7 日。本来の七夕です。  
しかし「旧暦」と呼んで後向きですし、かといって「太陰暦」では日陰者の印象。  
ならば「月暦」と積極的に呼ぶことにしましょう。

## 月と七夕

現代人は月の満ち欠けにまったく関心をはらわなくなってしまう。  
何が悲しゅうて、わざわざ梅雨の真っ只中に七夕祭をやらなければならないのでしょうか？  
天体現象と同期しない祭にどれだけの力があるでしょう。  
現代人が現実感を失ったと言われて久しいですが、まずこのあたりから取り戻さなければ。  
月の状態は人間の精神活動のみならず、身体、ひいてはすべての生物、無生物に大きな影響を与えていることは疑いようのない事実です。

明治以降、日本人は欧米に追いつけとばかり月暦をあっさり捨て、利便性からビジネス時計としての太陽暦に一本化してしまいました。暦はもはや無味乾燥な「数字」あるいは「目盛り」でしかなくなっていました。

天体現象を無視し、ヴァーチャルな日常を生きる日本人が、原発を平然と受け入れてきたのも無理からぬことだったと言えます。

本来の七夕は、月暦の正月から数えて 7 つ目の新月から 7 番めの月。夏も盛りを過ぎ、「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」の頃合に行われる祭です。  
当然梅雨空であるわけもなく、満天の星の下で先祖は宇宙に思い思いの夢を膨らませていました。  
天の川を渡るように見える上弦の月を舟に見立て、彦星（鷲座アルタイル）と織姫（琴座ベガ）が年に一回出会う、ロマンティックな物語。そして七夕から満月というクライマックスまでの 10 日間がいわゆるアジアにおけるお盆の大セレモニーでした。

太陽暦はあくまでもビジネス時計として割り切って使えばいいでしょう。  
しかし「祭」で月は主役です。  
月齢に従った祭を取り戻すだけでも、人の心はより豊かになるでしょう。  
「平日は仕事があつて祭に出られない」という人は物事の優先順位というものをもう一度考え直してみてください。

## 祭と幾何学

古代から人は星の運行に学び、正確な暦を作るべく数学を発展させてきました。  
その片鱗は今も各地の祭礼にも見られ、その天体や数（とりわけ素数）への偏愛たるや万国共通といえるでしょう。  
たとえば日本の雅楽や神楽は、天体の運行を模した時計仕掛けのように進行し、まるで幾何学的な曼荼羅を見るようです。  
人は「無限」を扱う数学的な方法によって時空の途方もない大きさを垣間見ることができます。  
とはいえ現実の宇宙は、未だほとんど謎のままです。  
さしづめ現代人は竹器時代に生きる超古代人なのかもしれません。

この月暦七夕サイエンス・カフェは、祭の音楽やしつらえの構造に古くて新しい数学を導入する試みです。  
登場する数学は、黄金比、フィボナッチ数列、ペンローズ・タイル、フラクタル幾何学。  
新しい道具立てによって伝統を抽象化し、再構築することによって、祭に新しい息吹が吹き込まれることでしょう。

アジア人として、せめて七夕の日ぐらひは、無味乾燥な日常を忘れ、空を見上げ、大地に足をつけ、この現実宇宙の広大さについて思いを馳せることにしましょう。

### 8 月 11 日（日）

会 場：ミーティングルーム 2（南館 3 階）

13:00-15:00

〔工作ワークショップ〕

七夕飾り「六勾納豆（むまがりなっとう）」をつくろう

キット代：1000 円 対象：小学生～

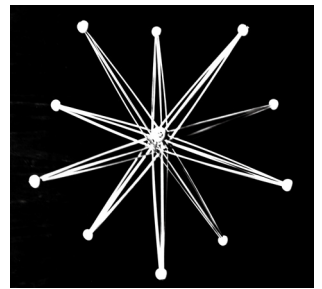
15:00-16:00 川根紅茶タイム

16:00-18:00

〔講義〕黄金比の音楽

〔音楽ワークショップ〕

フィボナッチ・ケチャック



六勾納豆（むまがりなっとう）  
くるくるぱっと開く竹の星。  
準結晶のタネ。

### 8 月 12 日（月）

会 場：ミーティングルーム 2（南館 3 階）

13:00-15:00

〔工作ワークショップ〕

七夕飾り「プレアデス」をつくろう

キット代：1000 円 対象：中学生～

15:00-16:00 川根紅茶タイム

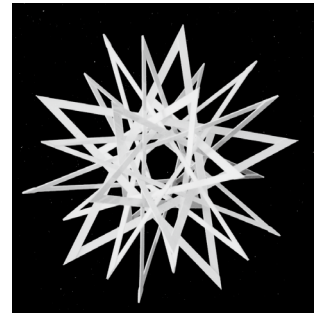
16:00-18:00

〔講義〕

学校で教えてくれない、受験にも出ない、面白数学「連分数」であそぼう

〔音楽ワークショップ〕

スクエア&デルタ・ケチャック



プレアデス  
6 つの安倍晴明判が絡みあう。  
たたんで投げるとボンと開く。

### 8 月 13 日（火）

#### 月暦七月七日七夕祭

会 場：和室「明倫」（南館 4 階）

13:00-15:00

〔工作ワークショップ〕

七夕飾り「フィボナッチ風車」をつくろう

キット代：500 円 対象：小学生～

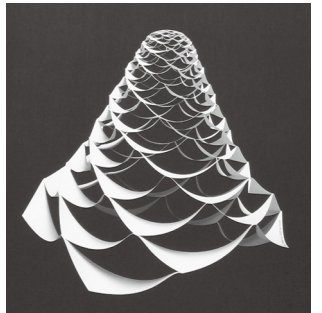
15:00 ごろから

空想数学的辻講釈「宇宙の形・原子の形」

17:00-19:00

月暦七夕フィボナッチ神楽

by たたけだけ神楽保存会



フィボナッチ風車  
色とりどり 5 色の風車。  
くるくる良く回ります。  
未来のタービン候補か!?

☆参観自由。

※和室「明倫」は満員の場合、入場制限することがあります。

#### 《工作ワークショップについて》

申込み不要／先着 20 名（12:30 より受付開始）

#### 《講義・音楽ワークショップについて》

対象：中学生～ 参観自由。

※申込み不要。先着順で会場が満員になり次第、受付けを締め切ります。

主催・問合せ：日詰明男 E-mail: akio@starcage.org

共催：京 都 芸 術 セ ン タ ー

日詰 明男 www.starcage.org

造形作家。龍谷大学理工学部客員教授。1960 年長野県生まれ。京都工芸繊維大学建築学科卒業。世界農業遺産に認定された茶所、川根本町（静岡）在住。

30 年来、黄金比に基づくフラクタル構造を、造形や音楽で表現する仕事が続けている。主な作品は、「民主主義的階段」（U.S.A.、ニュージーランド）、「黄金比の茶室」（コスタリカ、U.S.A.、静岡）、「フィボナッチ・ケチャック（たたけだけ）」など。著書に「生命と建築」（1990）、「音楽の建築」（2006）がある。京都芸術センターでの活動は「program seed」（2002）「星ぼっくり茶寮」（2008）に続き今回が 3 度目。

京都芸術センター

〒604-8156

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

TEL 075-213-1000 FAX 075-213-1004

http://www.kac.or.jp/

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」

22 番・24 番出口より徒歩 5 分。

駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

